

第8回 YRP 研究開発推進協会総会の開催

4月16日、YRP研究開発推進協会の第8回総会がYRPホールにおいて開催されました。

襦昭男会長の挨拶に続き、総務省大臣官房技術総括審議官 鬼頭達男様、横須賀市長沢田秀男様から来賓のご挨拶をいただきました。その後、議事に入り2003年度活動経過報告及び決算並びに2004年度活動方針及び予算が提案され、満場一致で承認されました。また任期満了に伴い役員の選出が行われ、羽鳥光俊名誉会長、襦昭男会長が再任されました。なお、新たな役員構成は下表のとおりです。



2004年度活動方針

YRPの目的と活動の重点

YRP研究開発推進協会は、2004年度において、「YRP5カ年ビジョン(2002年3月26日)」の実現に向け活動する。なお「YRP5カ年ビジョン」の活動目標は次のとおりである。

また、会員を対象に実施した「2004年度活動方針策定に際してのアンケート調査」の結果については、今後これを十分に念頭に置き、活動を進める。

電波・情報通信技術の研究開発拠点を整備し、その基礎技術・先端技術の研究開発を進めることにより、国内及び国際的な情報通信技術の発展に寄与するとともに、21世紀の高度で豊かな社会の構築に貢献する。

YRP研究開発推進協会の戦略課題はモバイル通信技術とする。横須賀リサーチパークに集積する国内外の電波・情報通信技術及びその周辺分野の研究機関・人材並びに研究開発・実験設備等の研究リソースの有機的な連携と活用を進めることにより、会員の研究開発にとって有益な事業の創出を行う。

目標実現に向けた重点課題

2003年度と同様に、モバイル研究開発の更なる拡大を核に YRPへの研究機関集積を推進し、研究開発アクティビティ向上 街としての諸機能整備のための事業を更に推進する。

2004年度の重点課題は次のとおりとする。

1. 研究機関集積推進
2. 進出研究機関にとって魅力ある環境として整備すべき課題
 - 新世代モバイル通信システム研究開発・研究交流推進
 - YRPユビキタス通信テストベッド実験・研究フォーラム活動推進によるユビキタスネットワーク実験・研究開発推進
 - モバイル通信技術・インターネット技術・放送技術の融合研究開発推進
 - ITS研究開発推進
 - モバイルセキュリティレベル強化に向けた活動
 - ソフト研究開発・ソリューション研究環境整備及びベンチャー企業との連携強化
 - 中国との連携強化
 - 産学官交流基盤充実、横須賀市のITビジネスモデル地区計画への協力

電波・情報通信技術研究開発の「+」のスパイラル構築

国際的な研究開発拠点としての研究基盤・交流基盤整備

産学官連携

快適な生活・研究環境整備推進

組織

2004年度活動方針の実現に向け、次の組織を新たに設置する。

事業検討グループ

事業検討グループとして、ベンチャー連携検討グループを設置する。



総務省大臣官房技術総括審議官
鬼頭 達男 様



横須賀市長
沢田 秀男 様



YRP研究開発推進協会
羽鳥 光俊 名誉会長



YRP研究開発推進協会
襦 昭男 会長

YRP 研究開発推進協会 2004 年度役員名簿 (敬称略、50音順)

役職名	氏名	所属・役職
名誉会長	羽鳥 光俊	中央大学 教授 東京大学名誉教授
会長	襦 昭男	(株)テレビ朝日 取締役 (元郵政大臣官房技術総括審議官)
副会長	大森 慎吾	独立行政法人情報通信研究機構 執行役
	蒲谷 亮一	横須賀市 副市長
	倉本 實	パナソニックモバイルコミュニケーションズ(株) 代表取締役副社長
	佐藤 昌弘	京浜急行電鉄(株) 常務取締役 地域開発本部長
	津田 志郎	(株)NTTドコモ 代表取締役副社長
会計監査	櫻井 義人	(株)日立製作所 情報・通信グループ IT政策推進本部 通信政策推進部 部長
	鈴木 泰浩	横須賀商工会議所 専務理事

独立行政法人 情報通信研究機構 (NICT)の発足

National Institute of Information and
Communications Technology

2004年4月1日、独立行政法人情報通信研究機構（東京・小金井）が発足しました。理事長には長尾真・前京都大学学長が就任されました。

同研究機構（NICT）の発足記念式典が4月7日、東京都内のホテルを会場に開催されました。総務省、情報通信関連の事業者、放送関係、研究開発機関、メーカー、大学や学会関係者などから300人以上が参加して新法人への期待を反映する盛大な式典となりました。

NICT (National Institute of Information and Communications Technology) は、独立行政法人通信総合研究所（CRL）と認可法人通信・放送機構（TAO）が統合して発足した新しい独立行政法人です。

旧CRLは基礎研究を自ら実施する研究機関、旧TAOは、実用化への橋渡しを目標にして主に民間、大学等の外部のポテンシャルを活用しファンディング機能等を有効に用いた研究開発を進めてきました。両者の機能を併せ持つNICTは、情報通信の基礎から実用化の一手前までの研究開発を産学官の有機的な連携によって推進することが可能となりました。また研究開発実施機能と産学などへのファンディング機能を連携させることで、研究開発成果の創出促進、産業界への技術移転の促進など、統合メリットを十分活かした戦略的な研究開発業務を遂行されます。

式典の挨拶に立った長尾真理事長は「国の情報通信政策を踏まえ、4つの戦略分野への取り組みを設定した」と語られ、新生NICTは「ICTバリューチェーンを作る」のキャッチフレーズのもとに結集すると抱負を述べられるとともに、次のようなNICTのビジョンを示されました。

- (1) 日本発の新たなICTの「礎」を作る。
- (2) ICT社会の「安心・安全」を作る。
- (3) 10年後、20年後の日本の技術の「種」を作る。
- (4) 技術の花開かせる「小槌」を作る。

引き続き、来賓祝辞では総務省から山口俊一総務副大臣、世耕弘成総務大臣政務官が挨拶をされました。内閣府総合科学技術会議の大山昌伸議員が乾杯の音頭をとられた後、和田紀夫日本電信電話（株）社長、伊賀健一（社）電子情報通信学会会長が来賓として新法人への期待をこめた祝辞を述べられました。

また麻生太郎総務大臣が経済財政諮問会議から駆けつけ、NICTを「産学官連携の要」として、また「暮らしやすい高齢化社会、活力ある高齢化社会の実現」に向けたNICTの役割の大きさを強調されました。

NICTは、国際的な産学官連携研究開発を進めるため、研究開発戦略機能を強化し、旧CRLと旧TAOの企画機能を統合した総合企画部を設置しました。総合企画部に研究戦略、知的財産戦略や国際的な研究連携強化のため企画戦略室、知財・産学連携室及び国際連携室をおき、総務部と一体となってビジョンの具体化と世界的な競争力をもつ研究開発とそのための環境整備に取り組む姿勢を明確にしています。

また、研究開発体制を総合研究系（塩見正理事）先導研究開発系（加藤邦統理事）促進・振興系（安成知文理事）に大括りにし、総務系（坂田紳一郎理事）企画系（寺崎明理事）とともに5名の各理事が担務する体制をとっています。さらに、関西等総合研究系運営強化のために執行役（大森慎吾執行役）を設置しました。

このように、NICTは基礎から実用化一歩手前まで一貫した研究開発を産学官連携を軸に実施する研究戦略と体制でスタートしました。この方針はYRPの今後の発展にとって大きな意義があると思われます。

長尾理事長は4月1日の記者会見で、情報



NICT発足式典で挨拶される長尾真理事長

通信社会の基盤整備に向け、大手家電メーカーと組んで超高速の無線技術「UWB（超広帯域）」などの標準化を急ぐ方針を明らかにされました（日経産業新聞2004.4.2）。長尾理事長は「情報通信社会の基盤となる技術開発に重点を置く」と語られ、超高速の無線通信技術の開発を急ぐ方針を表明されています。UWB通信は近距離での超高速データ伝送など家電製品やさまざまなネットワーク機器への応用が期待され、世界的に技術開発と標準化活動が激化し、各国が独自規格を提案し標準化が難航していますが、米インテルやモトローラなどに働きかけ、規格統一を急ぐ考えを明らかにされました。

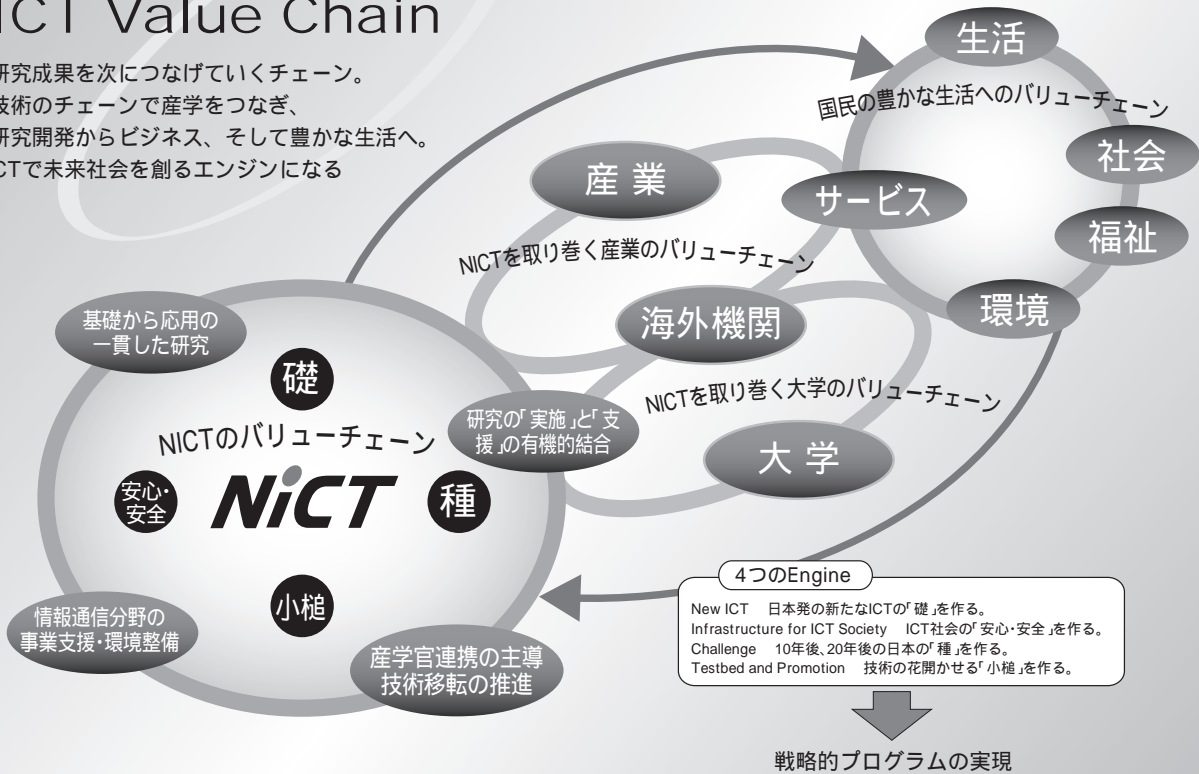
UWBの研究開発はYRPで進める産学官連携の重要プロジェクトの1つです。YRPにおいてNICTの横須賀無線通信研究センター（旧CRL同センター）の河野隆二プロジェクトリーダー（横浜国立大学教授）が中心となり、YRP研究開発推進協会の共同研究コンソーシアムが産学官連携のもとに研究開発を進めています。長尾理事長の発言は、新法人として、産学官連携強化を一層進め、その当面の具体的かつ、重要プロジェクトの1つがYRPで行われているUWB研究開発であることを示し、一層の促進に意欲を示したものとして注目されます。

産学官連携プロジェクトの世界的な研究開発拠点として成長し続けるYRPにとってNICTの新たな戦略は一層強力な推進力となりことが期待されます。

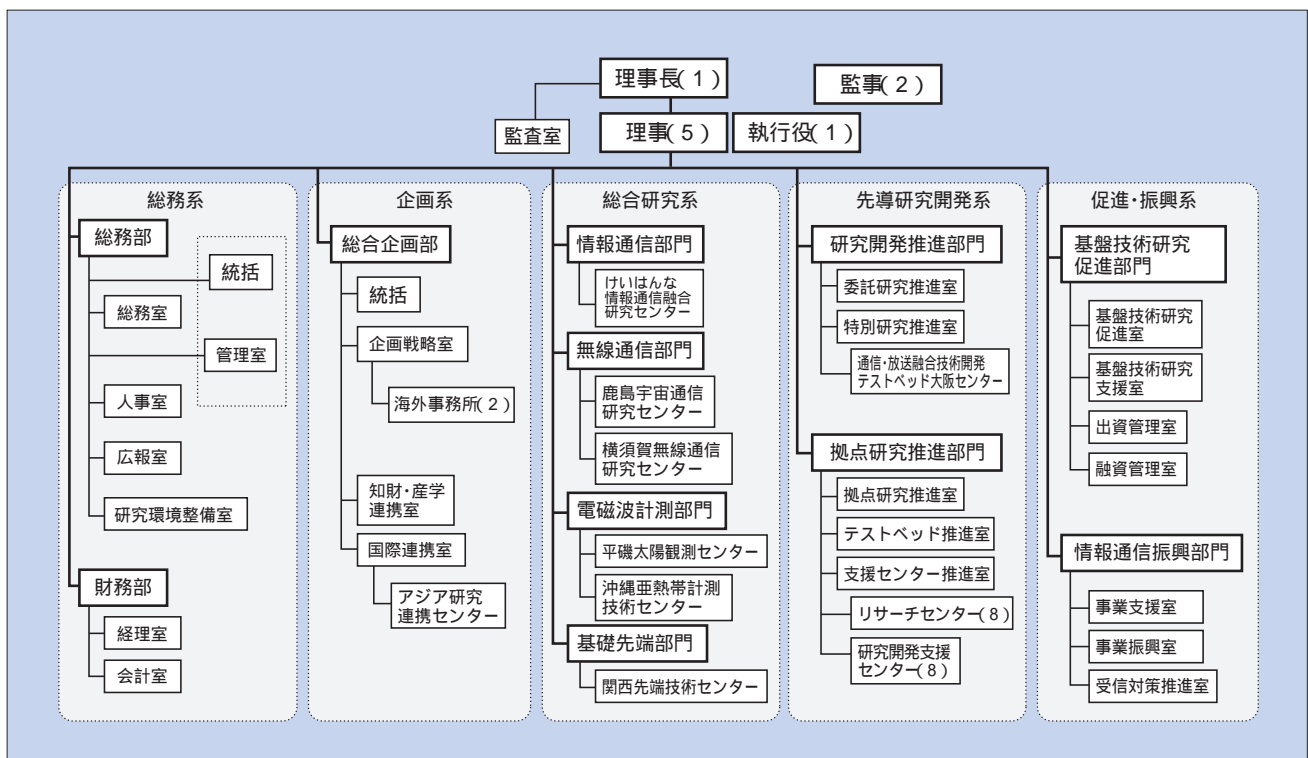
NICTビジョン ICTで未来社会を創るエンジンになる

ICT Value Chain

研究成果を次につなげていくチェーン。
技術のチェーンで産学をつなぎ、
研究開発からビジネス、そして豊かな生活へ。
ICTで未来社会を創るエンジンになる



NICTのビジョン



NICTの組織図

松沢神奈川県知事 Y R P ご視察

2月2日、松沢成文神奈川県知事が Y R P をご視察されました。沢田秀男横須賀市長（(株)横須賀テレコムリサーチパーク社長）の挨拶の後、Y R P 研究開発推

進協会齋昭男会長による Y R P の概要説明が行われました。その後 N T T ドコモ R & D センタ、N T T 横須賀研究開発センターをご視察されました。



神奈川県知事 松沢成文様

日中産業科学技術交流シンポジウム 中国代表団 Y R P ご来訪

4月14日、第13回日中産業科学技術交流シンポジウムの中国代表団が Y R P を来訪され、Y R P 研究開発推進協会齋会長から Y R P の現状と今後について説明を受けるとともに、Y R P の進出企業を視察されました。

同シンポジウムは情報通信分野に関わる現状や今後の協力のあり方等について、

日中両国の政府機関、通信事業者、通信機器メーカー等が一堂に会し、意見を交換するのを目的に、財団法人国際通信経済研究所、財団法人国際研修交流協会、中国通信学会の主催、総務省、中国信息产业部等関係各機関の後援により東京で開催されました。



協会長によるプレゼンテーション

第5回 アジア移動体通信 ワークショップ (AP-NeGeMo '04) 開催

第5回アジア移動体通信ワークショップ (AP-NeGeMo'04 : Asia-Pacific Seminar on Next Generation Mobile Communication'04) が、2004年2月15日から22日の日程でベトナム・マレーシア・タイの各国において開催されました。このワークショップは Y R P 研究開発推進協会会員企業のモバイル通信技術研究開発の状況を広くアジア・太平洋地域に紹介し、各国研究者との交流・意見交換を図ることを目的として、2000年1月から独立行政法人情報通信研究機構と Y R P 研究開発推進協会、(株)横須賀テレコムリサーチパークが共催して毎年実施しているものです。今年は SARS・鳥インフルエンザ等の影響がありましたが、

会員機関から14名が参加されました。今回の AP-NeGeMo においては、例年よりも質疑応答の時間を長く設けるプログラム構成とし、またマレーシアにおいてはパラレルセッションを実現したことにより、いつも増して活発なディスカッションが交わされました。(各国での現地協力機関、参加者数については下記参照)

AP-NeGeMo'04 現地協力機関及び参加者数

開催日	開催国(都市)	現地協力機関	参加者数
2/16	ベトナム(ハノイ)	Post & Telecoms Institute of Technology, Viet Nam Posts & Telecommunication Corp.	103
2/18	マレーシア(クアラルンプール)	Malaysia Multimedia University	173
2/20	タイ(バンコク)	National Electronics and Computer Technology Center	141



ベトナムにおけるワークショップ



マレーシアにおけるワークショップ

日・中移動体通信技術フォーラム 第5回訪問団報告

今回の訪問団は、3月17日から23日の7日間にわたり、中国移動体通信分野、特に3Gサービスの環境の視察・交流を目的に広州、昆明及び北京の情報通信関連大学・機関を訪問し、交流を深めました。

訪問先は南海区、中国連通雲南公司、雲南ソフトパーク、雲南大学信息学院、北京郵電大学、中国連通公司本社、大唐電信、広州新太科技集団。



雲南大学信息学院との会議 左が装助教授



大唐電信との会議

中国・杭州市信息化弁公室との 覚書(MOU)締結



MOU締結の様子

4月9日YRP研究開発推進協会及び(株)横須賀テレコムリサーチパークは、IT分野で急速に発展している中国・杭州市の信息化弁公室との間で科学技術協力に向けた覚書(MOU)の締結をしました。杭州市との具体的連携候補テーマとして、地域情報化及びITSがあがっています。



茅杭州市長(左)と握手するYRP理事長

YRPユビキタス通信 テストベッド活用実験・研究フォーラム



「救急医療実証実験」の報告が行われた。

3月5日、「YRPユビキタス通信テストベッド活用実験・研究フォーラム」(略称「YRPテストネットフォーラム」)の3分科会の活動報告が行われました。

3分科会とは、フォーラムの運営委員会、幹事会の下に組織された テストベッド整備推進分科会、通信技術及び放送技術の融合実験開発分科会、アプリケーション開発推進分科会です。

2003年度のフォーラムは、6月にフォーラムが設立され、運営委員会、幹事会等の開催及びアプリケーション開発推進分科会の「救急医療実証実験」

を中心に活動が行われました。

その活動を通じて技術課題やニーズの視点に立ったインフラの整備の必要性等の課題が浮き掘りとなりました。

今後は、各分科会委員のアンケート調査を行い、2004年度の活動を進めます。

現在の「救急医療における高速画像伝送」、「無線アドホックネットワーク通信実験」に加えて「地上デジタル放送と携帯端末との融合実験」、「鉄道の情報化」等のテーマが新たに検討されています。

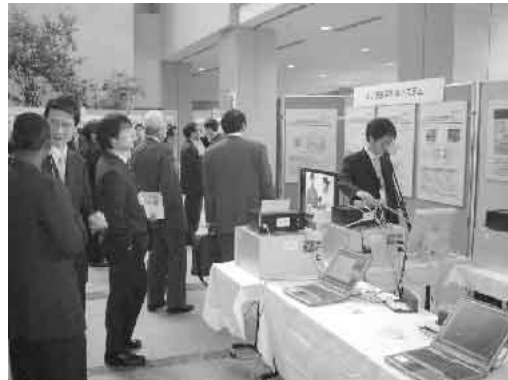
ミリ波国際会議 International Joint Conference of TSMW2004 , MINT-MIS2004

2月26日、27日にYRPセンター1番館で、第6回目を迎えたミリ波国際会議(TSMW2004)が、第5回MINTミリ波国際会議(MINT-MIS2004)と合同で開催されました。TSMWはミリ波最新技術に関する国際的な技術交流の場として、毎年YRPで独立行政法人情報通信研究機構とYRP研究開発推進協会等の主催で開催されていますが、今回はMINT-MISとの初の合同開催となりました。

学会では2つのチュートリアルセッションが開催され、IEEE802.15内のミリ波インタレストグループの議長であるリード・フィッシャー氏と、ITUR-WP3K-3の議長であるハジメ・スズキ氏より、それぞれミリ波の標準化動向が紹介されました。

またYRPから横須賀市まで展開されている、広帯域ミリ波無線アクセスシステムを利用した横須賀市役所からのリアルタイム中継講演も、学会内で開催され、高速・高品質画像伝送に参加者は驚きを隠せない様子でした。なお26日には、広帯域無線アクセスシステムのテクニカルツアーが開催されました。

また、学会に併設してシステムデモンストレーションが行われ、ミリ波アドホック通信システム、広帯域ミリ波無線アクセスシステム、ミリ波縦系配線システムの展示、さらに、今回新規に主催として参加した韓国東国大学ミリ波新技術研究センターや、協賛として参加したフィン



ランド国立ミリ波研究所のパネル展示が行われました。

学会参加者及び展示会参加者総数は約200名に上り、大盛況の元に幕を閉じました。なお、次回ミリ波国際会議は、2005年2月24日、25日に韓国ソウル市で開催される予定です。

電子情報通信学会主催 移動通信ワークショップ

3月3日から5日にYRPセンター1番館において、電子情報通信学会の無線通信システム(RCS)、アンテナ・伝播(AP)、マイクロ波(MW)、モバイルマルチメディア通信(MoMuC)及びワイドバンドシステム(WBS)の5つの研究会とIEEE VTS Japanの共催による移動通信ワークショップが開催されました。YRP研究開発推進

協会は協賛いたしました。

この会議では次世代の無線通信システム、アンテナ伝搬、マルチメディア通信、ワイドバンド通信などといった移動通信に関わる広い範囲を含んでおり、移動通信分野の最先端の研究が発表され討論が行われました。発表件数は全体で約90件、参加者は延べ400人であり会議への関心の高さが

うかがわれます。

今年は、「マルチメディア移動端末技術の動向」と題した特別セッションが開催され、現在及び未来のマルチメディア携帯端末の仕様や動向についても討論されました。

また、日本で研究されている外国の方も参加できる英語でのセッションも開催されました。

新技術開発戦略シンポジウム

3月22日、総務省東北総合通信局の主催で「新技術開発戦略シンポジウム」が開催されました。

このシンポジウムは、昨年12月18日に締結された、独立行政法人情報通信研究機構(NICT)と東北大学電気通信研究所、(株)横須賀テレコムリサーチパーク並びにYRP研究開発推進協会と東北イン

テリジェントコスモス構想推進3団体並びに東北IT産業推進機構との相互協力に関する覚書(MOU)調印を記念して開催されたものです。

「国際競争時代を生き残るための情報通信新技術開発戦略を考える」をテーマに行われ、パナソニックモバイルコミュニケーションズ(株)の倉本實副社長及びNICT



講演するパナソニックモバイルコミュニケーションズ(株) 倉本實副社長

Tの大森慎吾執行役(ともにYRP研究開発推進協会副会長)が講演とパネルディスカッションに参加しました。

YRPユビキタス・ネットワーキング研究所よりお知らせ〔第5回〕



YRPユビキタス・ネットワーキング研究所は、2003年1月に開設以来、年度としては4年目に入ろうとしています。

ユビキタス環境でのプロトコル開発を目指した研究は、順調に進捗しており、実証実験段階に入っています。

2004年度は農林水産省の食料品トレーサビリティ事業の一環として、(株)京急ストア、よこすか葉山農業協同組合、横須賀青果物(株)、(株)横須賀テレコムリサーチパークの全面的な協力を得て、世界初の実験を行い話題を呼びました。

本件技術の普及促進を図るために設けられた「T-Engineフォーラム」は、現在会員が329に達し、世界各国からの問い合わせが多く寄せられています。

同フォーラムと協力し合っ、次々に実証実験プロジェクトが動き出していますが、なかでも、国土交通省の協力で始めた、自律的



自律的移動支援プロジェクトでの実験

移動支援プロジェクトは、目の不自由な方にも、地面にセットされたタグから適格な情報をリアルタイムで提供することにより、安全で快適な歩行を確保できるものとして非常に期待されています。

今後は、物流、商品在庫管理など産業用の利用だけでなく、生活文化一般にいかにかに広く利用されていくことができるかという観点から、幅広い分野に利用を呼び掛けていく計画です。

OSUSUME ▶ SPOT

かろうと山古墳

光の丘隧道のYRP側入り口の左手に小さな登り坂があります。これがかろうと山古墳への入り口です。

両側に草木が繁る山道を進んでいくと5分ほどで古墳に到着します。

直径10メートルほどのこの円墳は、今は風化して1メートルほどの隆起を残すばかりです。出土品や石室の構造などから7世紀前半のこの地方の支配者の墳墓ではないかと推測されています。

周囲は林が開け、葉擦れの音や吹き抜ける風が心地良く感じられます。

盗掘を免れた出土品は横須賀市自然・



人文博物館にて保存・展示されていますので、ぜひ一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

横須賀市自然・人文博物館
〒238-0016 横須賀市深田台95
TEL046-824-3688
<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>

協会イベント案内

第6回YRP移動体通信産学官交流 シンポジウム2004

(平成16年度情報通信月間参加行事)

開催日 2004年7月7日(水)、8日(木)

開催場所 横須賀リサーチパーク

主催 YRP研究開発推進協会
独立行政法人情報通信研究機構

後援 総務省、横須賀市、京都リサーチパーク(株)
(予定) (財)ソフトピアジャパン、京浜急行電鉄(株)
(株)横須賀テレコムリサーチパーク

詳細については次のURLをご参照ください。

URL <http://www.yrp.co.jp/event/aig/2004/index.html>

問合せ先 YRP研究開発推進協会事務局

電話 046-847-5011

メール sangakukan@yrp.co.jp

第1回次世代ワイヤレス技術展

(Next Generation Wireless Technology
Exhibition & Conference)

会期 2004年7月21日(水)~23日(金)

場所 東京ビッグサイト
(ワイヤレスジャパン2004と同時開催)

主催 (株)リックテレコム、E.J.クラウド&アソシエート社、
YRP研究開発推進協会

実行委員長 羽鳥光俊 YRP研究開発推進協会名誉会長

入場料 事前登録者・招待券持参者は無料(それ以外2000円)

問合せ先 次世代ワイヤレス技術展運営事務局
E.J.クラウド&アソシエート日本支社

電話 03-5212-7071

メール info@ejk-japan.co.jp

URL <http://www.ric.co.jp/expo/wt2004/>

WPMC'04

第7回国際移動通信シンポジウム

WPMC'04 (= The 7th International Symposium on Wireless Personal Multimedia Communications) がイタリアのアパノ・テルメ市にて開催されます。

開催日程 2004年9月12日(日)~15日(水)

その他詳細については下記URLをご参照ください。

URL <http://www.dei.unipd.it/WPMC2004/>

ソフトボール大会 開催

YRP恒例のイベント“ソフトボール大会”の熱戦の火蓋が5月17日に切って落とされました。

栄えある優勝カップの獲得を目指してNTT通研グラウンド、YRPグラウンドにて、連日熱戦が繰り広げられています。

お時間のある方は、ご観戦してみたいいかがでしょうか？

YRP情報通信人材育成 研修について

2003年度に、情報通信人材研修「最先端の無線・情報通信技術講座」を開講し、多くの方々にご参加いただきました。

2004年度は、より本格的なIT人材研修として、主にYRP内の研究者等を対象に、「通信基礎技術の基礎及び理論」に重点をおいた情報技術研修をこの夏から開講します。

「無線通信システム概説」中嶋信生教授(電気通信大学人間コミュニケーション学科)、「伝送方式」安達文幸教授(東北大学大学院工学研究科 電気・通信工学専攻)、「制御とトラヒック論」服部武教授(上智大学理工学部電気・電子工学科)、「適応フィルター論」三瓶政一助教授(大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻)、「将来ネットワーク」森川博之助教授(東京大学大学院新領域創生学研究科)はじめ、情報技術分野において常に時代をリードし、第一線で活躍され、また、YRPに入居いただいている先生方を中心に、「通信技術理論」に関するカリキュラムを体系的に提供していただき、YRPの研究者・技術者にとって魅力ある講義展開を企図しております。基礎知識と更なる高度専門知識を修得していただきますよう、皆様のご参加をお待ち申し上げます。

お問い合わせ (株)横須賀テレコムリサーチパーク
総務部 佐藤 (TEL.046-847-5000)

YRPふれあい マーケット



YRP恒例のふれあいマーケットが4月29日のみどりの日、透き通るような空の下で開催され、約140の出店がありました。

三浦半島特産の農・水産物や園芸用品などの特価販売が催され、家族連れなどの大勢のお客で賑わっていました。



【編集・発行】

YRP研究開発推進協会

(株)横須賀テレコムリサーチパーク

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL: 046-847-5008 FAX: 046-847-5010

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL: 046-847-5000 FAX: 046-847-5010

<http://www.yrp.co.jp/>